平成 31 年度　東京都内湾水生生物調査　11 月成魚調査速報

●実施状況

令和元年 11 月 13 日に成魚調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 18 分、満潮が 5 時 27 分であった（気象庁のデータ）。調査当日の透明度は 2.5～4.9m であり、全調査地点で赤潮状態が確認されなかった。また、全調査地点で貧酸素状態は確認されなかった（千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報でも調査地点周辺の貧酸素状態は解消されている）。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:06-10:53		11:08-11:55		12:13-12:58		13:06-14:10	
水深（m）	24.4		12.0		14.1		8.4	
天候	晴		曇		曇		曇	
気温（℃）	16.9		17.4		17.2		17.9	
風向/風速(m/sec)	N/2.9		NNE/2.8		NW/3.5		N/4.3	
波浪(m)	0.1		0.1		0.2		0.2	
透明度(m)	4.9		2.5		3.5		3.6	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	18.2	22.1	18.4	20.6	18.3	20.5	20.0	20.4
塩分（－）	29.8	33.9	27.0	33.7	27.8	33.6	31.5	33.3
DO(mg/L)	8.8	4.0	6.3	3.3	8.3	3.6	5.0	2.8
DO飽和度(%)	111.3	55.4	79.4	44.9	104.8	48.6	65.9	37.3
pH（－）	8.2	8.0	7.8	7.9	8.1	8.0	7.9	7.9
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層（0m）・下層（海底面上 1m）

●主な出現種等　（速報なので、種名等は未確定です。）

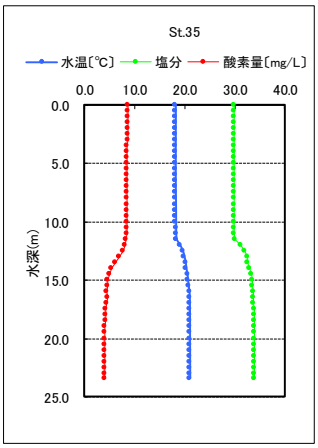
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	イネゴチ（r） アカハゼ（r） テンジクダイ（r）	テンジクダイ(r)	ハタタテヌメリ(r) ツバクロエイ(r)	サッパ（r） アカエイ（r） ツバクロエイ（r）
魚類以外（目立った種）	シャコ(c) テッポウエビ属（r） アカガイ（r）	ホンビノスガイ(+) シャコ（r） エビジャコ属（r）	ホンビノスガイ（+） シャコ（r） ヨシエビ（r）	ホンビノスガイ（+） サルボウ（+） アカガイ(r)
備考	テンジクダイやフタホシイシガニ、ケブカエンコウガニ等が採取された。	スナヒトデやオウギゴカイ、フタホシイシガニ等が採取された。	サルエビやタイワンガザミ、フタホシイシガニ等が採取された。	シャコやオウギゴカイ等が採取された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置

水質状況

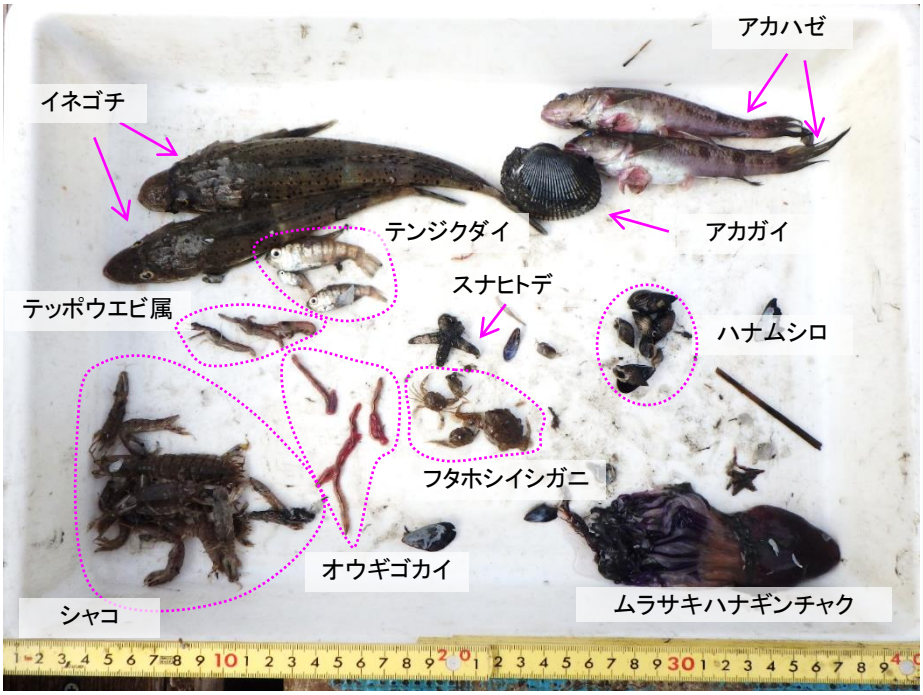


貧酸素状態は確認されなかった(底層 DO:4.0mg/L)。

地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

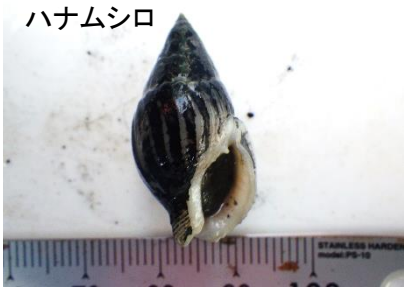
イネゴチ

マゴチと似ているが、両眼の間隔が狭く、頭部に発達した棘があることで区別できる。砂底や砂泥底に生息する。産卵期は夏で、体長 30cm 程になると雌に性転換する。

アカハゼ

ハゼの仲間の中では、比較的深所に生息する。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾央に分布する。湾奥では、貧酸素水塊の影響により減少したと考えられている。産卵期は春である。

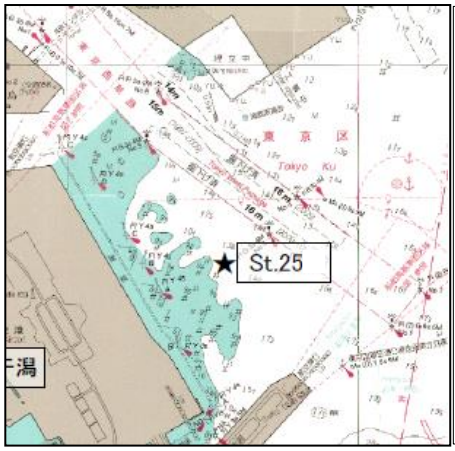
ハナムシロ



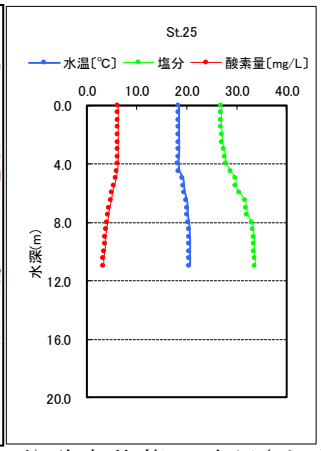
殻高 3cm 程の巻貝。水深 10～200m の砂泥底にすむ。ハナムシロやアラムシロガイ(稚魚調査でよく採取される)などのムシロガイ科の巻貝は、死んだ生物の肉を食べる腐肉食生である。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



貧酸素状態は確認されなかった(底層DO:3.3mg/L)。

地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

テンジクダイ

東京湾全域から出現記録があり、特に湾奥に多い。砂泥底に生息し、甲殻類等を食べる。繁殖期は 7～10 月である。

ウシエビ

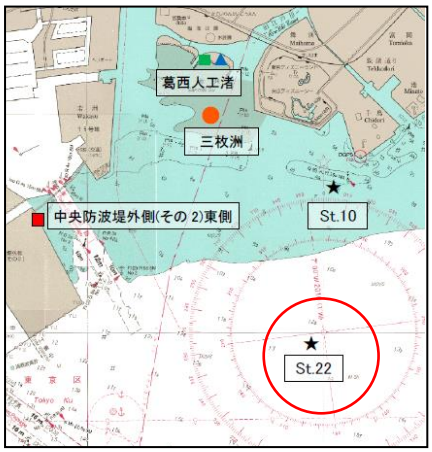
体長 30cm 程になる大型のクルマエビの仲間で、ブラックタイガーとも呼ばれる。南方系の種類で、インド洋から西太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。東京湾は分布の北限にあたり、採取記録は非常に少ない。

ホンビノスガイ

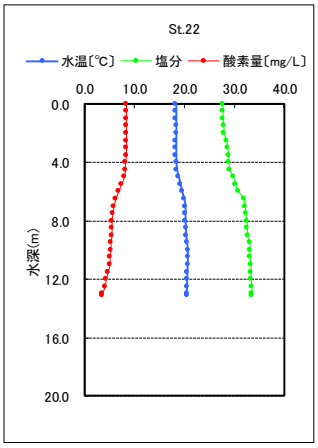
殻長 10cm を超える大型種。北米原産の外来種で、殻は本来白色だが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。東京湾の湾奥の泥底やカキ礁周辺で多くみられる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



貧酸素状態は確認されなかった(底層 DO:3.6mg/L)。

地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

東京湾全域から出現記録がある。体は横に伸びた菱形で、体盤幅は 1.2m 程になる。砂泥底に生息する。尾部の毒棘はアカエイに比べて小さい。採取された個体の重量は、5.4kg であった。

ハタタテヌメリ

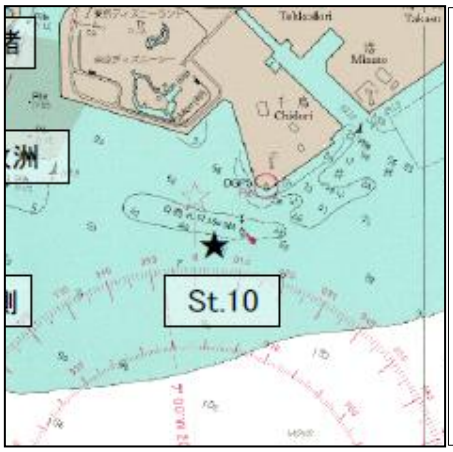
夏季には湾奥に分布するが、秋から春には湾央にも広く分布する。全長 14cm 程になる。産卵期は 11～2 月。内湾での底曳網調査で優占する魚種の一つ。東京湾では「メゴチ」と呼ばれている。

ヨシエビ

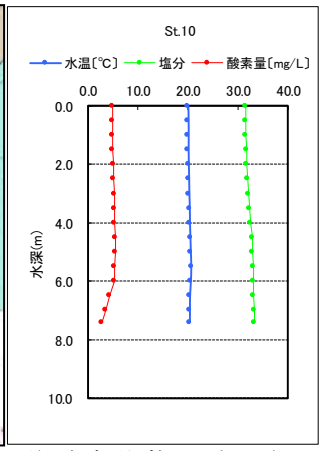
体長 15cm 程になるクルマエビの仲間。太平洋岸では東京湾以南に分布する。汽水域にも生息する。産卵期は 6 月～9 月頃。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



貧酸素状態は確認されなかった(底層DO:2.8mg/L)。

地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸鰭で海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類などを食べる。尾部の毒棘は大変危険。

サッパ

東京湾では内湾を中心に湾全域に生息する。産卵期は主に夏季。体長は10～20cm程で、プランクトンを食べる。

アカガイ(稚貝)　サルボウ(稚貝)

どちらも内湾の水深約 20m までの砂泥底に生息する。稚貝の時期は、足糸で海藻や基質等に付着して成長する。両種は殻の表面の筋の数で区別する(アカガイ 42 本、サルボウ 32 本)。